令和5年度（2023）活動計画自己評価

【自己評価実施手順】
①「使命達成のための活動計画」に掲げる9の「活動領域」、19の「活動の柱」、31の「具体的業務」、39の「目標」を一覧表に整理し、各担当者が自己点検欄の「R5実績」「達成率」「主な取り組み」「自己評価（コメント）」を記入した。
②全職員が「自己評価（コメント）」等を確認し、全項目を「できた」「どちらかといえばできた」「どちらかといえばできなかった」「できなかった」の4段階で評価した。
③全職員の平均値を当館としての自己評価案とし、館長以下管理・監督職で検証のうえ最終的な自己評価結果とした。

兵庫県立歴史博物館の使命		ひょうごの未来へのかけはしとなる博物館	成果指標
使命実現のための目標		◎目標1：過去と未来とのかけはし（資料の適正な保存・整理及び調査・研究） □目標2：地域と未来とのかけはし（地域の歴史文化遺産の活用のための基礎作りに貢献） ▲目標3：人と未来とのかけはし（全ての人々がより良い未来を創造する上で、新たな発見を得るための支援）	○博物館利用者総数：60万人を上回る。（活動計画期間の累計） ○博物館利用者満足度割合：95%を上回る。（アンケート結果）

使命達成のための活動計画							自己点検　【R5(2023)】				
活動領域	活動の柱		具体的業務		目標		R5実績	達成率	主な取り組み	自己評価	自己評価（○）および今後の取り組み（●）
1. 展示 ▲目標3 ○新たな発見と魅力にあふれた展覧会の開催 ○郷土の歴史について広く、かつ深く学べる常設展示の構築 ○大阪・関西万博に向けたインバウンドへの対応	（1）	展覧会の開催	1	特別展の集客力向上、満足度の維持・向上	年間入場者数 ※25,000人／1回	50,000 人	26,893人	53.8%	●HISTORY OF MUSEUM R5.4/8～6/18（8,204人） ●海洋堂と博物館 R5.7/15～9/3（18,689人） ●首里城と琉球王国 R6.3/16～5/12（会期途中のため入場者数はR6で換算）	どちらかといえばできた	○リニューアルオープンはしたが、R5は改修工事後のならし期間であるため、指定文化財や他機関からの借用資料の展示は行えず、結果として目玉となる展示資料が少なくなったと考える。 ○首里城と琉球王国の展示・イベントを企画・運営した。館長トークイベントについては登壇を依頼した方の一人がケガのため急きょ出演できなくなるというハプニングもあったが、沖縄県立博物館・美術館館長のご厚意によって支障なくイベント運営をすることができ、応募者の方にも満足いただくことができた。また、定員を上回る応募をいただき、入場者の増加に貢献できた。 ●今後も入場者増加のために講演会等での広報を行うなどの工夫をすることを心がける。
					満足度 ※アンケートでの「大変良かった」「良かった」を足した平均値	95 %以上	92.9%	97.7%		できた	
			2	企画展の集客力向上、満足度の維持・向上	年間入場者数 ※15,000人／1回	30,000 人	14,085人	46.9%	●ひょうご五国のやきもの R5.9/23～11/26（7,179人） ●古銭・古札を楽しむ R5.12/23～R6.2.18（6,906人）	どちらかといえばできた	○リニューアルオープンはしたが、R5は改修工事後のならし期間であるため、館蔵の指定文化財や脆弱な館蔵資料の展示は行えず、結果として目玉となる展示資料が少なくなったと考える。 ●今後も入場者増加のために講演会等で広報を行うなどの工夫をする。
					満足度 ※アンケートでの「大変良かった」「良かった」を足した平均値	95 %以上	94.95%	99.9%		できた	
			3	県内出張展示の継続実施	県内で出張展示を実施	1 箇所／年	2箇所	200%	●れきはくサテライトミュージアム「ひょうごの風景 ―震災の街を描く―」（於：人と防災未来センター） R6.2/6～3/24（18,287人） ●「障害者芸術作品巡回展」（斎藤畸庵作品バナー展示） （於：芸術文化観光専門職大学（豊岡市）、加古川ウェルネスパーク、姫路藩家老屋敷跡公園「は」の屋敷、丹波の森公苑（丹波市）） R5.10/14～12/1	できた	○れきはくサテライトミュージアムについて、当館の所蔵資料を紹介する貴重な機会となった。 ●今後も入場者増加のために講演会等で広報を行うなどの工夫をする。
	（2）	常設展示	1	障がい者や子育て世代など、誰もが利用し楽しめる展示の工夫	さわれる資料または体験学習資料を製作・公開	1 点以上／年	●さわれる資料：6点 ●体験学習資料：1種一式	700%	【さわれる資料】 ●仏像レプリカ3点（阿弥陀如来立像／狛犬（一対）） ●触図3点（城郭関係資料） →春季特別展で初公開の後、常設展示「みんなの家」で展示 【体験学習資料】 ●ワークショップ用鯱瓦の型10点 →キッズワークショップ「オリジナルミニ鯱瓦をつくろう！」で使用 ●「みんなの家」にて点字でのキャプションを設置	できた	○体験型展示室である「みんなの家」を、体験をうながすような雰囲気作りを目指してリニューアルした結果、昔のおもちゃなどリニューアル前からの体験展示に参加する観覧者が増加している。 ○城郭に関する触図の作成をおこなった。 ●当事者のフィードバックが得られていないため、次年度以降意見聴取のため、当事者団体と関係性を構築し、アンケート調査の実施を検討する。 ●今後も入場者増加のために講演会等での広報を行うなどの工夫をする。
			2	インバウンドへの対応	常設展示の解説パネルや音声ガイドの多言語対応を拡充	―	●常設展示の一部のキャプションに日英2カ国語の表記 ●スマートフォンを利用した音声ガイドに、一部英語の音声を導入 （城郭展示エリア）	―	●日英キャプション設置箇所（★は英音声ガイド） ・ひょうご五国のあゆみ ・こどもはくぶつかん ・ひょうごの祭り ・日本の城大百科★ ・姫路城大解剖★ ・美術とくらし ・みんなの家	どちらかといえばできた	●2カ国語以外の拡充を検討する。
			3	音声ガイドの拡充	スマートフォンを用いた音声ガイドを常設展示全体に拡充	―	●常設展示の一部に日本語音声ガイドを導入	―	●音声ガイド設置箇所 ・ひょうご五国のあゆみ ・日本の城大百科 ・姫路城大解剖 ・美術とくらし	できた	●他の常設展示にも拡充を検討する。

使命達成のための活動計画							自己点検　【R5(2023)】				
活動領域	活動の柱		具体的業務		目標		R5実績	達成率	主な取り組み	自己評価	
											自己評価（○）および今後の取り組み（●）
2. 教育普及 **□目標2 ▲目標3** ○より多くの生涯学習機会の創出 ○地域住民の歴史文化遺産活用の拠点づくり ○子どもの博物館利用を促進	（1）	アウトリーチによるシンポジウムの拡充	1	毎年、県内各市町で開催しているシンポジウムのテーマや内容の拡充	ひょうご歴史研究室の研究成果を活かしたシンポジウムを、新規の開催地において実施	1 回以上／年	新規実施回数：1回 （延べ実施回数：9回）	100%	●ひょうご歴史文化フォーラム「瀬戸内海の海人と水軍」 （於：淡路市立サンシャインホール） R6.3（113名） →淡路市での実施は初	できた	●今後も継続して実施していく。
	（2）	児童・生徒向け学習プログラムの推進 ▲目標3	1	児童・生徒向け体験プログラムの新規企画、開催	児童生徒が博物館に親しみを覚え、館蔵資料を通じて地域の歴史を学ぶプログラムを開催（定員20名）	1 回以上／年	●もよおし「キッズワークショップ」：1回 ●もよおし「れきし博士スクール」：1回	200%	●キッズワークショップ「オリジナルミニ鯱瓦をつくろう!」 R5.8（12人／小学生以下対象） ●れきし博士スクール 「歴史にひたろう―史料を読み解き、歴史のなぜ?に挑戦―」 R5.8（8人／小学校高学年～中学生対象） ・テーマ：「源平合戦図屏風」 ・保護者と子どもで「まなボード」を使って疑問点などを書き出し、 その後学芸員からの解説、推し場面の作成を実施	できた	【キッズワークショップ】 ○参加者の弟妹（未就学児）も一緒に材料を選んだり、型にはめる作業をしたりと、年齢を問わずできるワークショップであることが分かった。 ●ミュージアム・インクルージョン・プロジェクトのフィードバックで、「小学生以下、といった年齢を限定したイベントだと、知的障がいの人は難易度がちょうど良くても年齢的に参加できない。」という意見をいただいたので、R6年度からは「ユニバーサルイベント」として誰でも参加できるイベントに移行する。 【れきし博士スクール】 ○資料として難しいかと思われたが、親子で一つの資料を読み解いている様子は大変微笑ましく、またその後の発表も自信を持って行えていた。 ●絵解きのできる資料が対象となるため、R6年度は「熊野観心十界図」をテーマに実施予定。今後も継続して実施する。
3. 調査研究 **◎目標1** ○兵庫県の歴史・美術・民俗、日本の城郭等に関する調査研究を推進し、その成果を公表	（1）	調査研究成果の公表	1	研究紀要への計画的な投稿	調査研究計画書に基づいた調査研究の実施、および研究紀要への論文掲載数（資料紹介等も含む）	4 本／1年 （20 本／5年）	4本 （4本）	100% （20%）	●前田徹「播備作国境地帯の関東系所領―赤松円心挙兵の前提―」 ●大黒恵理【資料紹介】「近世播磨における庄屋層の女性たち ―佐用郡上月村大谷家文書 ゆうの書状を中心に―」 ●藁科宥美【活動報告】「さわれる資料」の制作とユニバーサル ミュージアムの取り組み ●藪田貫【活動報告】日本資料専門家欧州協会 EAJRS 第33回 年次大会基調講演「日本の『旧家』に眠る資料―デジタル化の前 に―」 ほか展覧会講演記録2本	できた	○論文のPDFを当館ホームページにて公開した。 ●読者の利便性向上のため、外部のデータベースを利用した論文公開手段の改善が課題である。
			2	収蔵資料目録の刊行	目録を刊行し、館蔵資料の情報を公開する。	―	―	―	―	できなかった	●業務を効率化して時間を作り、短期に集中して整理データの最終確認を行った上で、研究紀要の誌上での公開を進める。
	（2）	ひょうご歴史研究室の調査研究活動	1	研究成果の発信と活用の強化	一般県民向けの情報発信を強化するとともに、大阪・関西万博にあわせて研究成果を活かした事業を実施	―	●ひょうご歴史文化フォーラム ●デジタルミュージアム 「播磨のたたら製鉄史」 「英語版『播磨国風土記の古代史』」	―	●2-(1)-1のひょうご歴史文化フォーラム参照 ●研究成果を県民向けにわかりやすく発表するため、兵庫県立歴史 博物館ホームページのデジタルミュージアムに新規デジタルコン テンツを公開	できた	○デジタルミュージアムに2コンテンツの追加を行うことができた。 ●次年度以降には館蔵資料を公開するためのプラットホームの整備を行う。
4. 資料の収集・保管・活用 **◎目標1** ○郷土の歴史を物語る上で欠かせない資料の収集と次世代への継承 ○収蔵資料の適正かつ効果的な活用方法の構築	（1）	オンラインでの収蔵資料の公開	1	収蔵資料の整理。データベースへの登録の拡充	資料をデータベースに登録	900 件／1年 （4,500 件／5年）	813件 （813件）	90.3% （17.9%）	●古文書などの前年度収蔵資料や一括登録資料の内訳を登録	できた	○展覧会準備など期日が決まっている業務が優先されたため、思っていたよりも作業が進まなかったが、5年ベースで考え、作業を継続していく。 ●今後は学芸員が個々に抱えている資料データをデータベースに集約するという意識を共有する。
			2	データベースの個々の収蔵資料に画像を登録	資料写真をデータベースに登録	200 件／1年 （1,000 件／5年）	69件 （69件）	17.3% 6.9%	●常設展示「美術とくらし」で公開しているデジタルコンテンツや スマートフォンを利用した展示解説アプリ「ポケット学芸員」のデー タを主に登録	どちらかといえば できなかった	○必要に応じて撮影した資料写真数点を登録した。 ●撮影した資料について順次登録作業を進める。
			3	データベースにより出納を適切に管理	マニュアルを構築し本格運用実現	―	―	―	―	できなかった	○業務の見直しが進まなかったため。
			4	オンラインでの収蔵資料の公開	R7年度までにデータベースのオンライン公開を行う。 オンライン上の公開に向けて登録作業を実施。	収蔵資料：50点／年 公開画像：50点／年	―	―	●R6の事業であるため、R5は実績なし	できなかった	○データベースが一括管理可能なシステムを導入することになったため、オンライン公開のためだけの登録作業は基本的には不要となった。そのため、R6年度以降は資料登録数の数値目標は削除する。 ●R6年度に当館ホームページにてデータベースのオンライン公開に向けて、既存データを選択、整備して公開を予定している。
	（2）	収蔵資料の整備・充実	1	修復が必要な資料のリストの整備	順次リストを更新	―	―	―	―	できなかった	●R4にある程度資料の修復を実現できたが、いくつか積み残したものもある。改めてリストを作成できるよう、予算の確保を目指す。
			2	資料修復の実施	資料修復を計画的に実施	1 回以上／年	―	0%	―	できなかった	●R4に作成したリストの中で修復を行えなかったものは、いずれも費用が高額であり、予算の確保を目指す

使命達成のための活動計画							自己点検　【R5(2023)】				
活動領域	活動の柱		具体的業務		目標		R5実績	達成率	主な取り組み	自己評価	
											自己評価（○）および今後の取り組み（●）
5.博物館連携 **□目標2** ○各地の博物館と連携し、幅広い情報発信、収集を行い、魅力ある博物館活動を実現 ○姫路域北側への集客を促進	（1）	兵庫県博物館協会協力事業の充実	1	協会加盟館と連携し、ひょうごミュージアムフェアの開催により県民等に広くPRを行う。	ワークショップ型式のPRイベントの実施	1 回以上／年	1回	－	●ワークショップ型のPRイベント「ひょうごミュージアムフェア」 （於：兵庫県立兵庫津ミュージアム） R6.1/21（1,163人） ●兵庫県博物館協会の協力を得、県内博物館等20館が参加	できた	●R6年度も同様のイベントの計画を予定している。 ●予算の確保、およびどこが実施主体となるかなど検討課題がある。
	（2）	全国的な博物館ネットワークへの参画	1	日本博物館協会全国大会、全国歴史民俗系博物館協議会年次集会等への参画を通じ、魅力ある博物館活動を実現する。	日本博物館協会全国大会、日本博物館協会近畿支部総会、全国歴史民俗系博物館協議会年次集会、関西博物館連盟総会に参加し、その内容をもとに館内研修を実施	—	2回	－	●日本博物館協会全国大会 ●全国歴史民俗系博物館協議会年次集会 →館内会議にて研修報告を実施	できた	○全国歴史民俗系博物館協議会年次集会に参加した。 ●次年度以降も積極的に参加し、情報収集に努める。
	（3）	姫路域周辺3館（県立歴史博物館・姫路市立美術館・姫路文学館）の連携強化	1	3館が連携して事業を企画することにより、姫路域北側の文化施設の存在感を向上させる。	3館連携による催し物を開催	1 回以上／年	－	－	●神戸新聞社が中心となり、3館の夏の特別展について共通広報ポスターを制作	どちらかといえばできた	○神戸新聞社アート事業部の関与により、展覧会の共同広報など一過性の事業に活動は絞られたが、実施できた。 ●市美が企画する建築見学ツアーなど、イベントの共同企画などにより、継続的な関係性を築いていく必要があると感じる。
6.博学連携 **▲目標3** ○学校団体の利用数向上 ○児童・生徒への博物館利用の習慣づけ	（1）	児童生徒来館の促進	1	学校団体の受入実績を向上させる。	学校団体受入数	150 校／1年 （750 校／5年）	74校 （74校）	49.3% （9.8%）	●常設展示ワークシートの開発（展示替えごとに更新） →ホームページへの公開 ●来館時のガイダンス対応 ●学校団体の下見対応	どちらかといえば できなかった	○依頼のあった学校団体に対して展示解説を実施できた。 ●目標設定は県立他館と同程度の数字を設定している。学校団体受入に対する体制は当館の方が手薄であり、その事を考えると健闘したと評価したい。 ●学校団体の利用についての案内などをホームページ上に具体的に記載することにより、利用が向上する可能性はある。伸び代はあるので、今後も努力していく。
						10,000 人／1年 （50,000 人／5年）	5,137人 （5,137人）	51.4% （10.2%）		どちらかといえば できなかった	
			2	教員セミナー「博物館活用法」実施により学校団体の博物館利用を促進する。	参加教員数	20 人／1年 （100 人／5年）	26人 （26人）	130% （26%）	●兵庫教育大学との連携事業 【内容】 ・博学連携について（講義） ・館内見学（展示解説） ・指導案づくり（実習）	できた	●インターネットによる申込みを始めたことにより、利用者数および参加者の校種などの幅が広がったと考えられる。 ●R6以降は兵庫教育大学が窓口になるため、講座内容の質の向上は問題ないが、参加教員数の維持が引き続き課題となる。
	（2）	学校へのアウトリーチの拡充	1	子どもが利用しやすい動画コンテンツを制作し、配信することで、タブレットを使った授業において、当館の利用促進につなげる。	ひょうご歴史研究室とも連携し、歴史と文化、館蔵資料等に関するショート動画を作成・配信	—	－	－	－	できなかった	○リニューアルオープンの準備等により着手できなかった。
			2	アウトリーチ授業の拡充	ひょうご歴史研究室とも連携し、特に高等学校等でのアウトリーチ授業を前年度以上の回数を実施	—	3回	－	●姫路東高等学校「姫路城学」 ●姫路東高等学校書道部「播磨国風土記を書にする」 ●生野高等学校　展示解説 ●北須磨高等学校　学問入門講演会	できた	○2年生選択課外授業の展示解説・ワークショップに加え、1年次「姫路城学」（全員参加）の講演を実施した。 ●姫路東高等学校は2年次の「姫路城学」を授業化する方向で調整しているため、来年度はより受け入れ回数が増える見込みである。受け入れに関して、対応策を検討する。 ●本来業務の支障にならない範囲で事業を実施していく。
					ひょうご歴史研究室と連携しリモート授業に対応可能なコンテンツを開発	—	－	－	－	できなかった	●兵庫教育大学との協議の中で必要性を議論することはできた。今後具体化していく。
7.広報活動 **▲目標3** ○博物館の認知度向上 ○ウィズコロナ時代に適した広報	（1）	パブリシティ活動の強化	1	報道機関への資料配付	新聞掲載回数等について前年度比増	—	●新聞掲載：152回(R5) ／24回(R4)	増減率：633%	－	できた	●記者等にとってわかりやすい記者発表資料づくりを目指す。
					記者発表（資料配付）回数等について前年度比増	—	●記者発表（資料配付）：23回(R5) ／ 15回(R4)	増減率：153%	－	できた	●展覧会開催以外にも、イベントや新規事業実施など、積極的に記者発表を行う。
	（2）	インターネットによる 情報発信の充実	1	ホームページの閲覧者数するような適切な運営	アクセス数について前年度比増	—	1,090,551回(R5) ／415,671回(R4)	増減率：262%	●新着情報を随時更新 ●もよおしや展覧会のサムネイルを開催日やタイトルが分かりやすいデザインに工夫（サイズも掲載箇所に合ったものを作成） ●デジタルコンテンツ「What's about REKIHAKU?」、「播磨のたたら製鉄史」、「英語版『播磨国風土記の古代史』」を制作・公開 ※館内PCでの資料検索も含めての数	できた	○デジタルコンテンツを定期的に制作できた。 ●魅力あるデジタルコンテンツの立案をしていく。 ●当館のホームページはわかりやすく見どころが多いとの評判を得ている。今後もコンテンツンツの充実や、オンラインでの収蔵資料の公開などにより、アクセス数の増加につなげることができると考えられる。
			2	SNSのフォロワー数が向上するような効果的な情報発信	フォロワーについて前年度比10%増	—	Facebook 1,838人(R5) ／1167人(R4)	増減率：157%	投稿数：122回 ●リンクが必要な投稿については、URLを追記 ●学芸員コラム、館長ブログの更新情報を投稿	できた	○学芸員コラム・館長ブログの更新を実施できた。 ●引き続き更新作業を行う予定。 ●機会があるごとにSNS媒体の告知をし、フォロワーの増加を目指す。
						—	Instagram 1,013人(R5) ／439人(R4)	増減率：230%	投稿数：106回 ●展覧会の有料広告を実施 ●Instagram特有のアーカイブ表示に合わせて、正方形でサムネイルを作成 ●ハッシュタグは投稿内容に関連したものをつけ、検索にかかりやすく工夫 ストーリーズ：60回 ●投稿ではURLを貼れないため、ストーリーズにリンクを貼り、ホームページへと誘導 ●カウントダウン機能を利用した告知 ●フォロワー増加に関する内容を投稿	できた	○様々な工夫をすることにより、230%の増加率を達成した。今後も新鮮な内容を届けることができるように心がけたい。 ●イベントを投稿する際は、個人情報の保護に気をつける。

使命達成のための活動計画							自己点検　【R5(2023)】				
活動領域	活動の柱		具体的業務		目標		R5実績	達成率	主な取り組み	自己評価	自己評価（○）および今後の取り組み（●）
8. 参画と協働 **□目標2** ○博物館事業への参画促進と協働の拡充	（1）	友の会活動の充実	1	友の会会員数の回復および増加	会員数	600 人／年	404人	67%	●もよおしごとに会員募集の案内を配布 ●県内各所に会員募集の案内を配布	できた	●ユース会員（中学生・高校生）を設定し、若い世代の会員を開拓する。 ●友の会事業の充実を図りながら、徐々に会員を増やしていくべきと考える。
	（2）	ボランティア活動の充実	1	友の会ボランティア登録者数の回復および増加	登録者数	110 人／年	68人	62%	●ボランティア活動再開にあたり、研修を3回実施 ●R6年度のボランティア登録希望者に向けた説明会を実施（3/31）	できた	○資料整理ボランティア（土曜日）を実施。平日参加できない方への参画機会を用意することで会員数獲得を目指したが、参加者数は少なかった。 ●今後休日のボランティアの要望があれば実施を検討する。 ●ボランティア活動の充実を図りながら、徐々に会員を増やしていくべきと考える。
			2	ボランティア活動へのフォローアップ	各種ボランティア養成研修 兼フォローアップ研修を開催	1 回以上／年	1回	100%	●博物館ボランティアコーディネーター養成研修 R6.2（17名） 内容「ユニバーサルミュージアム−共生社会の実現に向けて−」 演題「ハラスメントのない社会をめざして」	できた	●次年度も同様に実施予定。
					活動班ごとのボランティアのつどいを開催	1 回以上／年	18回	1800%	●ボランティア研修会「ボランティア・キックオフ・ミーティング」 R5.6/4（41人） ●ごあんないボランティアの集い（2回） R5.10（12人）、R5.12（17人） ●イベントボランティア定期集会（8回） ●ハンズオンボランティア定期集会（7回）	できた	●次年度も同様に実施予定。
9. 管理運営 **◎目標1 □目標2 ▲目標3** ○効率的な管理運営 ○誰もが楽しめる交流の場づくり	（1）	施設・設備の維持管理	1	適切な維持管理に努める	施設・設備の維持管理計画の作成、および計画に沿った維持管理の実施	—	●維持管理計画の策定に向けた情報収集 ●施設・設備の不具合については随時対応	—	●雨漏り箇所の修繕（5箇所） ●排水ポンプの取り替え ●フィルム保管庫のカビ対策 ●講堂・姫路城大解剖奥倉庫内の害虫駆除	できた	●維持管理計画を策定（R6） ●適切な維持管理の実施。
	（2）	ホスピタリティーの向上	1	来館者アンケートの実施	満足度調査を毎年度実施し、その結果を毎年度向上させる。	—	—	—	—	どちらかといえば できなかった	●実施手法の検討を行ったが、具体的な調査内容の策定には至らなかった。 ●インクルーシブの面でのホスピタリティー向上を目的に実施手法を検討予定。